

際保健医療学会としては初めての試みであった。国内外でいろいろな学会が設立される中、このような共同開催は今後広がるのではないかと考えられる。

(林 玲子 記)

IPSS-IOM 合同開催研究会 「Asia in Motion: 移民送り出し国の政策と移民の健康」

2024年11月20日（水）、国立社会保障・人口問題研究所と国際移住機関（IOM）の共催による研究会「Asia in Motion: 移民送り出し国の政策と移民の健康」が開催された。国際人口移動が活発化するなか、移民の健康管理体制の構築がグローバルな重要課題となっている。また、SDGs ターゲット 10.7や「安全で秩序ある正規の移住のためのグローバル・コンパクト」などの国際規範の形成が進み、受け入れ国と送り出し国の協力関係の構築が不可欠となりつつある。こうした認識のもと、本研究会は、関係者の知見を共有し、効果的な施策展開への示唆を得ることを目的に開催された。

研究会では、まずアジア地域における移民送出政策の定量的な把握と評価の試みについて報告があり、続いて、感染症パンデミック等の健康危機における移民の脆弱性と、それに対応するための国際的な取り組みの進展についての報告があった。最後に、グローバルヘルスの視点から移民の健康を捉え、包括的な健康保障と連携の必要性を強調する報告が行われた。その後の全体討論では、参加者から多岐にわたる意見が出され、活発な議論を通じて、今後の効果的な施策展開に向けた連携強化の重要性が改めて確認された。

(宮井健志 記)

2024年人文地理学会大会

2024年人文地理学会大会は、2024年11月23日（土）～24日（日）に近畿大学東大阪キャンパス（大阪府東大阪市）で行われた。報告数は、特別研究発表 4 件、一般研究発表（口頭）35件、一般研究発表（ポスター）7 件の計46件であった。人口に関連の深い報告を挙げると、下記のとおりである。

山本 悟（山口大学・院）：消滅可能性自治体の潜在的特性に関する一考察—「人口特性別 9 分類」の主成分分析を中心に—

佐藤 洋（桃山学院大学）：地方自治体の人的資源不足が及ぼす行財政運営と地域への影響についての予備的考察

小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）：コーホート別国内人口移動が出生数に及ぼす影響—都道府県別の分析—

小坪将輝（東北大学・院）・中谷友樹（東北大学）：日本における国内人口移動の意思、動機と経験

畔蒜和希（明治大学・院）：東京都心の保育所における労働編成—郊外との差異に着目して—

住吉康大（東京大学）：徳島県鳴門市における移動生活者の受容推進施策—労働と観光が一体化した中長期滞在のもたらす影響—

これらのほか、国内人口に占めるシェアが急増している外国人が築き上げたエスニック・ビジネス等に関する興味深い研究もみられ、規模は小さいながらも充実した内容の大会であった。

(小池司朗 記)